

# 女性委員会通信

226  
2016.3.8  
(国際女性デー)

東京都港区新橋六 七一 川ロビル六階  
全国労働組合連絡協議会 女性委員会  
TEL 〇三 五四〇三 一六五〇  
FAX 〇三 五四〇三 一六五三

## 16春闘勝利！すべての争議に勝利しよう 大幅賃上げを獲得しよう！



2月19日、16けんり春闘全国実行委員会は、16春闘第二波として一日行動を行った。

まず東京総行動は早朝の郵政本社前で非正規社員の65歳雇止めと闘う抗議の声で開始し、文科省、国交省、厚労省、三井住友銀行に、JAL不当解雇撤回、薬害患者救済、井上眼科闘争勝利報告を行い経団連前に結集した。

経団連前の集会は東京全労協寺嶋事務局長の司会で開会し、主催者を代表し16けんり春闘全国実行委共同代表の大阪ユニオンネット・垣沼代表が経団連に向け闘う決意の挨拶を行った。共同代表の全労協・金澤議長、全港湾・松本委員長、全造船・風呂橋関東地協

執行委員、国労高崎・関口委員長、郵政産業ユニオン・中村書記長、全国一般東京南部・中島書記長、フジビ闘争を闘う争議団・小金井分会長から各々発言を受けた。

要請団を送り出したが経団連は今年も拒否をした。怒りのシュプレヒコールで抗議し、田宮共同代表の団結ガンパローで行動を締めた。

午後は、富士美術印刷、新日鉄住金本社、ニチアス本社と三井不動産、km国際自動車、東京都庁に分かれ、争議解決を求める行動を行い、最後はトヨタ東京本社前で組合つぶし・現地労働者の解雇撤回を求める行動を行い、東京総行動に参加した仲間の団結ガン

## 「止めよう！辺野古埋め立て」 21全国で「斉アクシヨ」

「止めよう！辺野古埋め立て」国会包囲実行委員会と、戦争させない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会が、初めて共催で取り組まれた。

「犠牲を沖縄だけに押し付けてのう



2016年2月21日 辺野古埋め立てで国会前で行動

のうとは生きられない！」「裁判闘争が3つも行われているなんて異常だ！」「地方自治が踏みじられて、この無法を黙って見ている訳にはいかない！」「そんな想いを抱え国会前に集まった参加者は2万8千人！となり、怒りの矛先は国会へ向けて放たれ、そしてそこで居眠りをしたりヤジを飛ばしたりしている政治家へ向けて、怒りの声をシュプレヒコールした。

手と手をつないだヒューマンチェーンの包囲は「民意」と言う名のもうひとつの「美ら海」だ。

この取り組みに合わせて、沖縄から稲嶺進名護市長とへり基地反対協議会の安次富浩さんが登壇し訴えられた。国会周辺をテーマカラーである青い波のうねりで覆い包囲は大成となつた。野党共闘で戦争法案は絶対に廃止へ追い込もう！

全国一般三多摩労組 渡辺香織

### 16春闘勝利！大幅賃上げ獲得！ 4・6けんり春闘中央総行動

2016年4月6日(水)

- 13時00分 ~ 経団連要請行動、厚労省、首都高速、郵政本社前行動  
各労組・団体のノボリ旗などを持ち寄って下さい。
- 18時00分 ~ 16けんり春闘総決起集会  
新橋・交通ビルB1ホール、終了後、デモ行進を予定しています。  
最大限の取り組みをお願いします。

### フジビスラップ訴訟不当判決を 撥ね返そう！ささなるご支援を！

パローで一日の集会を締めくくった。16春闘勝利に向け、団結を打ち固め全力で闘い抜こう。

富士美術印刷が「フジビ闘争」の争議行為に対し、当該組合員個人を提訴した「スラップ訴訟」に対する判決が

2月10日に出された。判決は「会社が請求する2千2百万円の損害賠償に対し、当該組合員3名は連帯して350万円を支払え」という不当なものだ。会社が主張する社前行動や顧客からの取引停止、ネット上の記述による損害などは認めていない。

しかし、地裁は「ピラや旗・横断幕に書かれた表現が一般人に与える印象として会社の社会的評価を低下させている」というのだ。金額の根拠は何も示されていない。憲法第28条に保障された団結権・団体行動権の行使を「共同不法行為」と断罪する不当判決である。

これは一争議一労組に対する攻撃のみならず、労働組合全体に対する司法の弾圧であり、安倍政権が目論む憲法改悪を先取りする極めて危険な判決である。全て労組の力を結集させて不当判決を覆し、フジビ闘争に勝利しよう！

# 国連女性差別撤廃委員会

## 5回目の日本報告審議報告

性差別是正が進まない日本！

委員たちのいらだちが伝わった

2月16日（火）ジュネーブの国連女性差別撤廃委員会（CEDAWCEDAW）で7年ぶりに第7・8次日本報告の審議が行われ、日本女性差別撤廃条約NGOネットワーク（JNNC）から80名余が傍聴に参加した。私は女性委員会が参加する均等待遇アクション21としてジュネーブに行ってきた。

JNNCは09年の総括所見でフォローアップ項目（民法改正と暫定的是正措置）が指定され、その実現に向け、10年夏にはシモノヴィッチ委員の招聘を行い、総括所見の進捗チェックなど条約実現を求めて活動を続けてきた。昨年7月には会期前作業部会にも参加、CEDAWからの課題リストはJNNCレポートの反映が実感できるものだった。JNNCは課題リストへの回答を中心にレポート準備し1月20日委員会に送付したが、政府回答書が出されたのは1月29日だった。

半数余の委員が

プライベートミーティングに参加

2月15日にはNGOから委員がヒアリングする機会がある。昼のJNNCによるプライベートミーティングには12名（23人中）の委員が参加、JNNCから18人、日弁連他で20名が発言し

た。会場でのリハーサルも効を奏して秒単位の発言が流れる様が続き、委員からいくつもの質問があった。15時からの非公式NGOブリーフィングは、日本をはじめ4か国が対象で、日本はトップでJNNCほか6グループが発言し、委員の質問にも答えた。

差別是正の進捗が余りに限られている！との指摘が

16日10時から本審査開始。28人の政府団团长は外務省の杉山審議官であった。彼は冒頭総括的な報告を「安倍政権は女性活躍を最重要課題とし、第4次男女共同参画基本計画を策定した、長時間労働と転勤が当然視されている男性中心の労働慣行を変える、介護離職やマタハラをなくす、有期労働者が育休を取りやすくする育児介護法の改定案を上程中である。G7議長国としてジェンダー主流化を打ち出す。最後に12月末に日韓で慰安婦問題が合意した、本条約は79年成立でありそれ以前の問題を取り上げるのは適切ではない」と等と発言した。委員会の慰安婦問題への言及を牽制するものだ。

政府との対話は数条毎行われる。委員からは、差別の定義の法律への取り入れが未だになされていない何が問題なのか、入れることを考えているのか、男女共同参画という言葉は経済のためで人権とは違うように思う、実体的平等をあらゆる分野に実現を、進捗が見えない、本条約のポジションはどうなのか（国内法として有効なのか）、選択議定書の批准の予定はどうか、差別的な法律がまだ残っており条約1・2条に反する、男女平等

には専任大臣が必要では、「202030」の目標実現には政党要請などではダメ、具体的な政策が必要等々厳しい意見が続いた。政府各省が、別姓に関する民法改正は与党の理解が不可欠だが与議員も大きく意見が分かれている、選択議定書は慎重に検討、少子化も一緒にやれるから兼任も有効など回答した。

雇用関連では賃金ギャップの大きさ、ILO100号条約の具体化方針はあるのか、最高裁による差別の判断は狭い解釈がされている、セクハラが正式に禁止されていない、マイノリティ女性やシングルマザーの状況への懸念、包括的な反差別法を作る気があるのか等々の質問があった。厚労省の担当者は同一価値労働同一賃金について労基法4条で担保され、法改正の必要はないと答えた。

全体にJNNCからのレポートが委員質問に反映していることを実感した。

慰安婦問題でみえたアベ政権の体質日本では慰安婦問題だけが報道されたようだが、委員からは被害者が納得しなければならぬ、他国の被害者はどうするのか、歴史の事実は変えられない等追及された。杉山氏は正確を期すと日本語で日韓合意内容を繰返し、中国の委員に「性奴隷は事実と反する、日韓合意にはない、事実と反することを言ったと指摘せざるを得ない」言放った。日本政府が雇った通訳は決してうまくなかったから委員たちに「正確」に伝わったとは思えない。日本国内向けの発言なのだろうが、日本の国際評価は下がったのは間違いない。総括所見は3月7日に出た。（柚木）

## NTT木下さん多くの仲間に関われ、34年間の闘いに終結宣言を行う！



3月4日都庁第二本庁舎食堂において「NTT木下職業病闘争終結報告会」が行われ、200名を超える支援の仲間たちが、34年間もの長期争議を闘い抜いた木下孝子さんに万雷の拍手を送った。

木下さんの長女晶さんの歌とギターで開始された報告会は、支援共闘会議副議長

の司会により進められた第一部で、同大森議長の主催者挨拶につづき同野中事務局長から、2002年に結成された支援共の経過報告と闘いの終結が提案され確認された。

来賓として福島瑞穂参議院議員秘書の石川さんと全労協金澤議長からご挨拶を受けて、立錫の余地もない支援の仲間たちを前にして木下孝子さんから心を込めた支援御礼の言葉が述べられた。

支援共小関副議長の乾杯の発声で始められた第二部は、次から次に支援の仲間たちがマイクを握り木下さんの34年間の闘いに敬意を表した。また、共に闘った争議団の仲間たちから木下さんの闘いを引き継ぎ争議勝利を目指して闘う決意の発言があった。

最後に木下孝子さんを中心に夫の木下義男さんと長女の晶さんの三人が壇上に立ち閉会の挨拶を行った。支援共事務局次長として支え続けた木下義男さんはこの長い争議は皆さまの御支援があればこそ闘えたこと、また、晶さんからは生まれた時から闘いの中にいたが幸せでしたと御礼の言葉があり、都庁舎に響く団結ガンバローで締められた。報告会の成功を支えてくれた多くの仲間へ感謝します。

全国一般東京労組・中原純子

女性委員会の皆様の御支援に心より感謝いたします。毎回のようにニュースへの掲載や物販にご協力いただきましたこと忘れません。また、報告会では可愛いプリザードの花を頂戴いたしました、記念として大切にいたします。長い間の御支援本当にありがとうございました。木下孝子